

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ばれっと (放デイ)		
○保護者評価実施期間	R8年2月16日		～ R8年3月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	R8年2月9日		～ R8年2月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 4月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にしている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	年2～3回の親子レクリエーションや日々の活動を通して、保護者が子どもの成長に関わる機会を設けています。親子で成功体験を共有でき、保護者同士の自然な交流にもつながっています。	参観や親子活動では、事前に内容や流れを共有し、当日は保護者同士が話しやすい雰囲気づくりに配慮しながら進行しています。また、子どもの様子や成長が家庭でも分かるよう、写真・活動記録・インスタなどを活用して情報を伝える工夫をしています。	次年度は、卒業児を招く機会をつくったり、相談支援員との連携をさらに深めていきます。兄弟児も参加しやすい参観日の実施も検討し、保護者が関わりやすい場を広げていきます。家庭と事業所が一緒に子どもの成長を支えられるよう、より開かれた環境づくりを進めていきます。
2	小学校低学年・中学年でグループを分けることで、発達段階に応じた療育内容を提供できる体制を整えています。それぞれの年齢に合った課題設定や関わり方ができ、子どもたちの成長につながっています。	小学校1・2年生は、自分で活動内容の計画を立て、それに沿って行動できるようにする訓練を行っています。3年生以上は、自立に向けた学習として身だしなみを整えることや、生活に結びついた内容を取り入れながら療育を行っています。それぞれの成長段階に合わせて、無理なく取り組めるよう支援方法を工夫しています。	今後も職員間での振り返りを継続し、子どもたちの成長段階に合わせた療育内容を検討しながら、活動の幅を広げていきます。個別の取り組みとグループ活動のバランスを意識し、社会性の向上につながる支援をより充実させていきます。
3	地域に児童センターや公民館、市立図書館などの施設があり、子どもたちが多様な環境に触れられるよう、これらの地域資源を積極的に活用しています。地域とのつながりを生かした活動ができる点が強みとなっています。	土曜日や長期休みに地域の施設へ出向き、職員さんや学童の子どもたちと顔を合わせる機会をつくっています。少しずつ名前を覚えてもらえるような関係を大切にしながら、地域とのつながりを深めています。	今後も職員間での振り返りを継続し、支援の成果を共有しながら、子どもたちにとってより良い関わり方を検討していきます。あわせて、保護者や地域との連携を強化し、地域の中で子どもたちの成長を支えられる活動の幅を広げていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援が事業所内での相談援助にとどまっておらず、ペアレントトレーニングなどの体系的な保護者支援の機会を設けることが難しい点が課題となっています。保護者が学びやすい環境づくりが今後の検討課題です。	保護者との定期的な面談以外にも、保護者同士が学び合える機会を広げていく必要があります。しかし、年間を通して毎月設定している療育参観についても、保護者の仕事の都合により参加が難しい場合が見受けられ、日程調整や参加しやすい環境づくりが課題となっています。	保護者が参加しやすい環境を整えるため、面談や療育参観、相談の機会を柔軟に設定していきます。また、研修会の内容を資料で共有し、参加が難しい保護者にも学びの機会が届くよう工夫します。あわせて、保護者同士が気軽に交流できる場を設け、情報共有や支援の広がりにつなげていきます。
2	地域とのつながりは少しずつ広がってきていますが、関わる施設や交流機会が限られる日もあり、継続的に交流できる仕組みづくりには課題があります。子どもたちが地域の中で多様な経験を積めるよう、今後も連携の幅を広げていく必要があります。	利用できる地域施設が限られているため、交流先が固定化しやすく、活動の幅が広がりにくい状況があります。その結果、継続的で多様な地域交流の仕組みづくりが難しく、地域連携の広がりに課題が生じています。	地域交流の幅を広げるため、新たな施設や団体とのつながりを徐々に増やしていきます。あわせて、これまで関わってきた地域施設とも継続的に交流できるよう、計画的にスケジュールを調整していきます。子どもたちが地域で多様な経験を積めるよう、負担のない形で連携の広がりを図っていきます。
3	産休・育休や人事異動などにより職員体制が変動した時期があり、支援方法の統一や情報共有に時間を要する場面がありました。新しい職員への引継ぎや子どもたちとの関係づくりにも一定の時間が必要となり、安定した支援体制を維持するうえで課題が生じました。	産休・育休や人事異動などによる職員体制の変動が続いたことで、支援方法の統一や情報共有に時間を要する場面がありました。新しい職員への引継ぎや、子どもたちとの関係づくりにも一定の時間が必要となり、安定した支援体制を維持するための仕組みづくりが課題となっています。	職員間での定期的な情報共有やケース確認を継続し、支援内容の統一を図っていきます。また、引継ぎ体制をより丁寧に整えることで、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに努めます。あわせて、職員体制が変化した場合でも安定した支援が継続できるよう、チームで連携しながら支援力の向上に取り組んでいきます。